様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　２ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ００６４２

研究課題名（和文）帝国林業をめぐる知と実践の展開に関する研究

研究課題名（英文）Knowledges and practices of imperial forestry

研究代表者
中島　弘二（Nakashima, Koji）

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：９０２１７７０３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　7,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日本帝国の植民地や支配地域における森林および林業をめぐる科学的知識の生産と実践の諸過程を明らかにするとともに，英帝国の一つである英領インドにおける林学の発展との比較を通じて，日本帝国主義と森林・林業との関係の一端を明らかにすることができた。亜寒帯から熱帯まで広範な環境条件を有する諸地域を含む日本帝国の地理的・環境的な多様性は、それぞれの地域における科学的知識と帝国林業の関係に種別的な影響をもたらし、そのことが英帝国とは異なる日本の帝国林業の特徴をもたらしたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の最も大きな学術的意義は、これまでの帝国と環境との関係をめぐる環境史・科学史の研究の議論のほとんどが西欧帝国主義、なかでもイギリス帝国主義とその支配地域に関するものであったのに対し、本研究は近代アジアにおける唯一の帝国主義である日本帝国主義を対象として林業および林学の発展の歴史の検討を行い、帝国と環境との関係に関する新たな視点を打ち出した点にある。それはまた、環境史的な観点からの日本帝国主義の再検討をも同時に意味している。こうした視点は、SDGsなどの現代の環境保全をめぐる議論に対して、より地理的・歴史的な視点からの検討の必要性を示唆するものでもある。

研究成果の概要（英文）：This research described historical processes of production of scientific knowledge and practices of forest and forestry in sphere of the Japanese empire and elucidated specific relationships between the Japanese empire, forest, and forestry during the colonial era through a comparative analysis with historical processes of forestry development in the British India.

研究分野：人文地理学、環境史

キーワード：日本帝国主義　環境史　植民地　森林　林業　林学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまでの帝国と環境の関係に関する環境史研究および科学史研究のほとんどは西欧帝国主義、中でもイギリス帝国主義に関するものである。一方、近代以降の非西欧諸国における唯一の帝国主義国家であった日本では総力戦を戦うという観点から帝国圏が有機的に位置づけられ、動員されたという点で西欧帝国主義とは異なる特徴を有する。このような日本帝国の特徴は、中心（本土）と周辺（植民地）との環境的な相互作用の可能性を高め（Morris-Suzuki 2013)、西欧帝国主義とは異なる植民地科学と資源利用のネットワークを形成したことが推察される。そしてこのような知と実践のネットワークは、総力戦下の愛林運動や戦後の国土緑化運動など日本独自の環境保護主義の展開に結びついていったと考えられる。この点に、西欧帝国主義と環境保護主義をめぐる議論とは異なる道筋を見出すことができる。

２．研究の目的

以上を踏まえて、本研究では近代日本の帝国林業を事例として、森林・林業をめぐる科学的な知（林学）のあり方と帝国の植民地経営、そして林業資本の活動という３つの要素の諸関係を明らかにし、森林・林業をめぐる知と実践の具体的な展開過程を明らかにする作業を通じて、日本帝国主義と環境保護主義との関係を明らかにする。さらに、このような近代日本における帝国林業をめぐる知と実践の諸関係を西欧帝国主義の文脈と比較検討することで、日本帝国主義の特徴を描き出し、これまでの西欧中心の帝国主義と環境保護主義をめぐる議論を相対化する。

３．研究の方法

日本帝国内の植民地や支配地域に関して、林学者や林業研究機関の研究活動、現地政府（台湾・朝鮮総督府、樺太庁・南洋庁、満洲国政府）の林業政策、そしてそれぞれの地域における林業資本の活動内容を明らかにする作業を通じて、それぞれの地域における知と実践の諸関係を解明するとともに、帝国林業全体においてそれぞれの地域が占める位置付けを明らかにする。また、こうした作業を、海外の朝鮮・台湾研究者、さらには英帝国林業に関する研究者との共同作業を通じて、より国際的・学際的な視点から進めることとする。そのために、英帝国の研究者や台湾研究者を交えて、合同研究会や国際学会での共同セッションを開催し、グローバルな視点から本研究の成果を検討する

４．研究成果

(1) 日本帝国における森林の環境的多様性と森林管理の特徴

前述のように、日本帝国の勢力圏は樺太や北海道などの亜寒帯地域から台湾や南洋などの亜熱帯・熱帯地域まできわめて多様な環境条件の地域を含んでいる。そのため、日本の帝国林業は日本本土の林業・林学で蓄積された知見をふまえながらも、それぞれの地域の森林の環境的多様性に対応しながら森林資源の開発と保全を進めることとなった。

例えば、樺太では亜寒帯気候に自生する針葉樹の開発を主とするパルプ材供給地としての役割が期待されたが、過伐や乱伐、山火事や病虫害の影響により、次第に森林資源の枯渇が危惧される状況となり、1932 年には樺太庁によって樺太島外への木材移出が制限されることとなった。

朝鮮の山林をめぐっては早くから日本の林学・林業関係者によって山林荒廃論が叫ばれ、過剰な利用が朝鮮の森林植生を破壊し多くの禿山を生み出してきたとされてきたが、実際にはこうした荒廃地は朝鮮半島南部の山林に限られ、半島北部の鴨緑江沿岸には広大な原生林が広がっており、日系林業会社による伐採事業が営まれていた。そのため植民地朝鮮では造植林や厳しい林野利用規制を中心とする森林保全政策と大規模な原生林の伐採事業の両方が進められていた。

台湾では中央部の高山地帯を中心に原生林が分布していたが、そこはまた先住民族の居住地でもあり、日本人林業官や林学者の認識は、先住民族のおこなう焼畑耕作によって貴重な原生林が焼き払われ山林は荒廃しているというものであった。こうした野蛮で前近代的な森林利用をあらため、保続林業を柱とする近代的な林業経営を台湾に導入することが植民地林業の課題とされた。一方、特に海岸部や島嶼部を中心に砂防造林が進められ、裸地植生の改善が図られた。

満州では、前述のように朝鮮との国境地帯の鴨緑江沿いに針葉樹の原生林が分布していたが、全体的にはそれほど森林蓄積量は多くなく、特に西部の乾燥地帯においては飛砂による被害や砂漠化を食い止めることが大きな課題となっていた。満州国の森林管理については、技術面では森林の構成状態から天然更新を主体とした保続林業の実現を図ること、運営面では官行斫伐事業を広く実施し、国有林野事業特別会計制度を施行することを柱とした。

南方の森林開発が注目を集めるようになったのは 1922 年に南洋群島が日本の委任統治領となってからであり、特に 1930 年代に日中戦争が始まってからは南方進出が日本の国策として定められ、特に東南アジアの森林資源開発が注目されるようになり、パルプ原料や林産資源の供給地として多くの日本企業が熱帯林の開発に乗り出した。しかしながら、欧米宗主国による伐採権の制約もあり、日本企業による熱帯林開発の多くは伐採後の植林を伴わない略奪型開発であった。

(2)帝国林業の展開と自然をめぐる科学的まなざし

次に、日本帝国林業において、林学は「帝国の自然」としての森林をどのよう捉えていたのか、そこでは帝国と科学的知識との間にはどのような関係があったのかを具体的に明らかにした。

樺太については、現地行政機関である樺太庁とその傘下の研究機関としての樺太庁中央試験所、北海道帝国大学・京都帝国大学・東京帝国大学等の大学演習林、王子製紙など企業の調査試験機関、樺太山林会などの現地林業機関が発行するテキストの分析を通して、樺太の山林に対する科学的知識の形成と変容の過程を明らかにした。朝鮮については、朝鮮総督府で朝鮮林政の中心的な役割を担った斎藤音作に焦点を当てて、その思想と実践を具体的に明らかにした。台湾については、草創期の台湾林学の礎を築いた田代安定と台湾林学・林業とのつながりを明らかにするとともに、台湾の林業試験場の変遷と研究内容について、その特徴を明らかにした。満州については、「満洲国」興農部林野総局林野試験室実験林について、その設立過程と具体的な研究内容を明らかにするとともに、そうした実験林がその後の中国の林業モデル局や研究所へと継承されていったことも明らかにした。また、台湾総督府技師でありのちに九州帝国大学教授に転出した金平亮三に焦点を当てて、南洋の植物調査の実態とともに、西欧研究者との交流の実態を明らかにすることを通じて、帝国時代の日本林業における学知の形成において、グローバルな人的交流がどのように形成され、学術や現場にどのような影響を与えたかを検討した。

(3)海外研究者との交流および海外への情報発信

本科研の研究目的の一つに、近代日本における帝国林業をめぐる知と実践の諸関係を西欧帝国主義の文脈と比較検討することで、日本帝国主義の特徴を描き出すという課題がある。また、台湾や韓国などの研究者との交流も本研究を進めるうえで重要であると考えられる。

【国際ワークショップおよび国際学会でのパネルセッション】

以下の国際ワークショップおよび国際学会で本科研グループの主催によるセッションを開催し、研究発表をおこなった。いずれのセッションでも、本科研メンバー以外に海外からの研究者も参加して研究発表を行うとともに、ディスカッションをおこなった。

・国際ワークショップ“Empire Forestry Networks and Knowledge Production”の開催（2018 年 11 月 23 日-24 日、於 東京都・駒澤大学）

・国際学会「第５回東アジア環境史学会」でのパネルセッション“Production of scientific knowledge and the Japanese empire forestry”の開催（2019 年 10 月 26 日、於 台湾台南市・成功大学）

・国際学会「第６回東アジア環境史学会」でのパネルセッション“From Colonial Forestry to Empire Forestry”の開催（2021 年 9 月 9 日、於 京都市・京都大学、オンライン開催）

【台湾研究者との交流】

・国立台湾大学植物標本館訪問（2019 年 3 月 4 日）

・台湾行政院農業委員会林業試験所（2019 年 3 月 5 日）

・国立東華大学歴史学系・人文社会科学院（2019 年 3 月 6～7 日）

本科研メンバー（中島弘二、米家泰作、三島美佐子）で 2019 年 3 月 4 日－8 日に台湾を訪れて植民地期資料の調査を行い、現地研究者との研究交流をおこなった。国立台湾大学植物標本館と台湾行政院農業委員会林業試験所では金平亮三をはじめとする当時の日本人研究者の活動や研究内容について多くの知見を得られただけでなく、現地の研究者とのコラボレーションによる展示会の開催や共同出版の計画など今後の研究につながるたいへん有益な議論を行うことができた。また、研究代表者の中島は花蓮市の国立東華大学を訪問し、台湾森林研究の第一人者である王鴻濬教授と研究打ち合わせを行うとともに、本科研の研究成果について同大学で“Knowledge and Practices of the Japanese Empire Forestry”と題する講演をおこなった。

(4)国内学会でのシンポジウム開催

研究期間中に以下の２つの全国学会において本科研のメンバーを中心とするシンポジウムを開催し、その後にそれぞれの学会誌に報告を掲載した。

・日本地理学会秋季学術大会シンポジウム「帝国林業，森林，林学―帝国の自然をめぐる科学的まなざし―」（2020 年 11 月 8 日、オンライン開催）

中島弘二・竹本太郎・中山大将・永井リサ・米家泰作・三島美佐子・水野祥子「帝国林業，森林，林学―帝国の自然をめぐる科学的まなざし―」*E-Journal GEO* 16 巻 1 号， pp. 146-151.（2021 年 3 月刊行）

・林業経済学会 2021 年春季大会シンポジウム「近代化と森林管理:知の普及に注目して」（2021 年 3 月 24 日、オンライン開催）

中島弘二「日本帝国における森林の開発と保全―台湾を事例に―」林業経済研究 67(1)，3-15

竹本太郎「日本帝国における植民地森林官の思想と行動-齋藤音作の前半期の足跡から-」林業経済研究 67（1)，16-30（2021 年 3 月刊行）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計22件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 竹本太郎	４．巻 806
２．論文標題 齋藤音作先生の事績：ソウルに眠る関川村出身の森林官	５．発行年 2019年
３．雑誌名 林業にいがた	６．最初と最後の頁 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹本太郎	４．巻 87
２．論文標題 遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群	５．発行年 2019年
３．雑誌名 森林科学	６．最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11519/jjsk.87.0_34	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中山大将	４．巻 10
２．論文標題 日ソ戦後の在南サハリン中華民国人の帰国：境界変動による樺太華僑の不本意な移動	５．発行年 2020年
３．雑誌名 境界研究	６．最初と最後の頁 46-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中山大将	４．巻 13
２．論文標題 サハリン樺太史研究会10周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 北方人文研究	６．最初と最後の頁 59-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 13
2．論文標題 中国語圏におけるサハリン樺太史研究：庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地	5．発行年 2020年
3．雑誌名 北方人文研究	6．最初と最後の頁 165-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 13
2．論文標題 サハリン／樺太史研究DB（データベース）について：個人作成資料目録の統合と活用	5．発行年 2020年
3．雑誌名 北方人文研究	6．最初と最後の頁 171-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 31
2．論文標題 境界地域史研究資料統合活用計画：研究者個々人が作成した未公開の資料目録の活用に向けて	5．発行年 2019年
3．雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会　NEWS LETTER	6．最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 25
2．論文標題 書評　今西一・飯塚一幸編『帝国日本の移動と動員』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本移民研究年報	6．最初と最後の頁 158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三島美佐子	4．巻 26(2)
2．論文標題 金平亮三の研究史研究より	5．発行年 2019年
3．雑誌名 木科学情報	6．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三島美佐子	4．巻 490
2．論文標題 金平亮三の植物描画	5．発行年 2019年
3．雑誌名 西日本文化	6．最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米家泰作・竹本太郎	4．巻 21
2．論文標題 帝国日本の近代林学と森林植物帯―19世紀末台湾の調査登山と植生「荒廃」―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アリーナ	6．最初と最後の頁 138-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 11
2．論文標題 樺太のエスニック・マイノリティと農林資源：日本領サハリン島南部多数エスニック社会の農業社会史研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 北海道・東北史研究	6．最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 20
2．論文標題 台湾と樺太における日本帝国外地農業試験研究機関の比較研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本台湾学会報	6．最初と最後の頁 45-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将、竹野学、木村由美、ブル・ジョナサン、パイチャゼ・スヴェトラナ	4．巻 11
2．論文標題 サハリン樺太史研究会第41回例会 樺太の〈戦後〉史研究の到達点と課題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 北海道・東北史研究	6．最初と最後の頁 108-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Taisaku Komeie	4．巻 93
2．論文標題 Japanese Colonial Forestry and Treeless Islands of Penghu: Afforestation Project and Controversy over Environmental History	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Geographical Review of Japan Series B	6．最初と最後の頁 50-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4157/geogrevjapanb.93.50	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 竹本太郎	4．巻 67
2．論文標題 日本帝国における植民地森林官の思想と行動：齋藤音作の前半期の足跡から	5．発行年 2021年
3．雑誌名 林業経済研究	6．最初と最後の頁 16-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20818/jfe.67.1_16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中島弘二	4．巻 67
2．論文標題 日本帝国における森林の開発と保全―台湾を事例に―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 林業経済研究	6．最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20818/jfe.67.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中島弘二・竹本太郎・中山大将・永井リサ・米家泰作・三島美佐子・水野祥子	4．巻 16
2．論文標題 帝国林業，森林，林学―帝国の自然をめぐる科学的まなざし―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 E-journal GEO	6．最初と最後の頁 146-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4157/ejgeo.16.146	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 永井リサ	4．巻 35
2．論文標題 九州帝国大学農学部資料整理を契機として	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The Kyushu University Museum News	6．最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 36
2．論文標題 境界地域史研究資料統合活用計画：歴史研究者自身による個人目録のデータベース化とWeb公開	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本植民地研究	6．最初と最後の頁 113-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 米家泰作	４．巻 67
２．論文標題 百年前の日本の領域－百年前を調べるときに考えるべきこと－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 地理	６．最初と最後の頁 21-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中山大将・巫セイ	４．巻 34
２．論文標題 日本領樺太移民社会の医療と衛生問題	５．発行年 2022年
３．雑誌名 釧路公立大学紀要人文・自然科学研究	６．最初と最後の頁 9-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計42件（うち招待講演　3件／うち国際学会　21件）

１．発表者名 Taisaku Komeie
２．発表標題 Japanese scientific forestry and treeless islands in colonial Taiwan: Controversy on the environmental history of the Penghu Islands
３．学会等名 The 5th Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 米家泰作
２．発表標題 日本統治期の澎湖島の植生史論争にみる科学的林業と植民地的環境主義
３．学会等名 2020年度日本地理学会春季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Taro Takemoto
２．発表標題 The exploration of Yushan mountain and the discovery of Alishan forest in colonial Taiwan in the late 19th century
３．学会等名 The 5th Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹本太郎
２．発表標題 統治初期台湾における阿里山森林の探索
３．学会等名 林業経済学会2019年秋季大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 永井リサ
２．発表標題 20 世紀初頭の鹿児島県における土壌の変化と米収量の向上－薩南地域を中心に－
３．学会等名 日本土壌肥料学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Taisho Nakayama
２．発表標題 Border Shifting and People in Russo-Japanese Borderlands: Sakhalin/Karafuto and Kuril/Chishima. Competing Imperialisms in Northeast Asia: Concepts and Approaches
３．学会等名 Opening Conference, Competing Imperialisms Research（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 現代東アジアにおいて〈トランスナショナル〉を問うことの意義：『日本人と海外移住』を起点にして
３．学会等名 日本移民学会2019年度大会シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 境界地域史研究資料統合活用計画：歴史研究者自身による個人目録のデータベース化とWeb公開
３．学会等名 第27回日本植民地研究会全国研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 住民から見た日本領樺太の形成と解体
３．学会等名 国際フォーラム「2・8独立宣言100周年、日韓未来100年と南北協力のための政策提案フォーラム：日韓歴史葛藤の原点、植民地支配責任に対する考察」植民と冷戦研究会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Taisho Nakayama
２．発表標題 Experimental Activities of SCES and Private Companies: A Comparison with Taiwan and Hokkaido under the Japanese Empire
３．学会等名 The 5th Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Misako Mishima
２．発表標題 Research activity and specimen collection of Ryozo Kanehira: Based on the material evidences and his personal history
３．学会等名 The 5th Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三島美佐子・中島弘二・藤岡健太郎
２．発表標題 九大の植物関連資料と研究史研究ー金平亮三を中心として
３．学会等名 日本植物分類学会第19回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shoko Mizuno
２．発表標題 Indigenous Knowledge and Practices in British Colonial and Postcolonial Forestry Networks
３．学会等名 Tenth European Society of Environmental History Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shoko Mizuno
２．発表標題 Hybrid Forest Practices in British Colonial and Postcolonial Forestry Networks
３．学会等名 The 5th Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koji Nakashima
２．発表標題 Knowledge and Practices of the Japanese Empire Forestry: Overview of the Research Project
３．学会等名 International Workshop “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Taro Takemoto
２．発表標題 Quantitative Aspects of Forest Management in the Japanese Empire
３．学会等名 International Workshop “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Taisaku Komeie
２．発表標題 Fire, grassland, and the imperial foresters: Intercolonial understandings on vegetation change and 'devastation' in the Japanese Empire
３．学会等名 International Workshop “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Misako Mishima
２．発表標題 Material Approach to the Japanese Empire Forestry Using Collections of Kyushu University Museum: An Encounter of Ryozo Kanehira and Rescued Historical Furniture
３．学会等名 International Workshop “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Taisho Nakayama
２．発表標題 Forestry and Agriculture in Subarctic Colony Karafuto
３．学会等名 International Workshop “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shoko Mizuno
２．発表標題 Indian Forestry and British Colonial and Postcolonial Forestry Networks
３．学会等名 International Workshop “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中島弘二
２．発表標題 「人新世」の時代における環境運動
３．学会等名 日本地理学会2019年春季学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koji Nakashima
２．発表標題 Research on knowledge and practices of empire forestry: initial accomplishments
３．学会等名 國立東華大學歴史學系専題演講系列（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 戦後サハリンにおける旧樺太住民慰霊碑等の建立史研究　：樺太移民社会をめぐる複数の〈記憶〉と〈戦後〉
３．学会等名 日本移民学会第28回年次大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 中国語圏におけるサハリン樺太史研究：庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地
３．学会等名 サハリン樺太史研究会10周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 境界地域史研究資料統合活用計画：研究者個々人が作成した未公開の資料目録の活用に向けて
３．学会等名 第28回近現代東北アジア地域史研究会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹本太郎
２．発表標題 日本帝国による森林管理の量的把握
３．学会等名 林業経済学会秋季大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 永井リサ
２．発表標題 草原とシラス台地：20 世紀初頭の内モンゴル東部草原からの有機物流出
３．学会等名 「日本帝国と草原」国際ワークショップ：「近代満洲をめぐる有機物の循環～草原・森林・農地そして都市へ～」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 永井リサ
２．発表標題 中国近代における獣骨肥料供給地としての屠畜場の成立について―天津屠畜場を中心に―
３．学会等名 日本土壌肥料学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 米家泰作
２．発表標題 植民地台湾における草創期の林学と田代安定
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中島弘二
２．発表標題 台湾総督府林業試験所と帝国林業
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹本太郎
２．発表標題 日本帝国における森林管理の量的把握
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 水野祥子
２．発表標題 イギリス帝国林学と焼畑
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 永井リサ
２．発表標題 「満洲国」林業遺産の継承と断絶－「満洲国」興農部林野総局林野試験室実験林跡地の状況について
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 日本領樺太における林業技術の開発と普及：学知と移民社会
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 三島美佐子
２．発表標題 金平亮三と西欧科学者
３．学会等名 2020年度日本地理学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹本太郎
２．発表標題 日本帝国における植民地森林官の思想と行動：齋藤音作の前半期の足跡から
３．学会等名 2021年度林業経済学会春季大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中島弘二
２．発表標題 日本帝国における森林の開発と保全－台湾を事例に－
３．学会等名 2021年度林業経済学会春季大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Taisaku Komeie
２．発表標題 Education and spatial network of imperial foresters of Japan: Career analysis of graduates from imperial universities
３．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Koji Nakashima
２．発表標題 Conservation and exploitation: Japan’s tropical forest development in Southeast Asia during the 1930s-1960s
３．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shoko Mizuno
２．発表標題 Forestry and Indigenous Land Use in Postcolonial India
３．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Taisho Nakayama
２．発表標題 Exclusion and Collaboration in the Forest of Empire: Activities of Forestry Organizations in Karafuto (Southern Sakhalin) and Hokkaido
３．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 食の〈質〉的貧困と合理性：樺太米食撤廃論から考える食の〈自由〉と食の〈正義〉
３．学会等名 2022年度日本農業史学会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計11件

1．著者名 水野祥子	4．発行年 2020年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 268
3．書名 エコロジーの世紀と植民地科学者－イギリス帝国・開発・環境	

1．著者名 米家泰作	4．発行年 2019年
2．出版社 思文閣出版	5．総ページ数 372
3．書名 森と火の環境史－近世・近代日本の焼畑と植生－	

1．著者名 中山大将	4．発行年 2019年
2．出版社 清水書院	5．総ページ数 117
3．書名 国境は誰のためにある？－境界地域サハリン・樺太	

1．著者名 蘭信三、川喜田敦子、松浦雄介編（中山大将：分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 341（分担執筆：300-321）
3．書名 引揚・追放・残留：戦後国際民族移動の比較研究（分担執筆「第12章　残留の比較史：日ソ戦後のサハリンと満洲」）	

１．著者名 三谷博、張翔、朴薫編（中山大将：分担執筆）	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 425（分担執筆： 403-421）
３．書名 響き合う東アジア史（分担執筆「第18章　帝国解体の後：旧樺太住民の複数の戦後」）	

１．著者名 現代地政学事典編集委員会編（中島弘二：分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 912（分担執筆：516-517）
３．書名 現代地政学事典（分担執筆「第４章 第４節　自然と地政学」）	

１．著者名 中山大将	４．発行年 2019年
２．出版社 国際書院	５．総ページ数 389
３．書名 サハリン残留日本人と戦後日本：樺太住民の境界地域史	

１．著者名 日本森林学会 編（竹本太郎：分担執筆）	４．発行年 2021年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 694
３．書名 森林学の百科事典	

1．著者名 Ts'ui-jung Liu and Micah Muscolino eds. (Taisaku Komeie: Chapter 3)	4．発行年 2021年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 250
3．書名 Perspectives on Environmental History in East Asia Changes in the Land, Water and Air	

1．著者名 柴崎茂光・八巻一成編（竹本太郎：第12章）	4．発行年 2022年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 288
3．書名 林業遺産－保全と利用にむけて－	

1．著者名 日本科学史学会 編（水野祥子・中島弘二：分担執筆）	4．発行年 2021年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 758
3．書名 科学史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中山　大将 (Nakayama Taisho) (00582834)	釧路公立大学・経済学部・准教授 (20102)	
研究分担者	米家　泰作 (Komeie Taisaku) (10315864)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	竹本　太郎 (Takemoto Taro) (10537434)	東京農工大学・（連合）農学研究科（研究院）・講師 (12605)	
研究分担者	三島　美佐子 (Mishima Misako) (30346770)	九州大学・総合研究博物館・教授 (17102)	
研究分担者	水野　祥子 (Mizuno Shoko) (40372601)	駒澤大学・経済学部・教授 (32617)	
研究分担者	永井　リサ (Nagai Risa) (60615219)	帝京大学・経済学部・講師 (32643)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 International Workshop on “Empire Forestry Networks and Knowledge Production”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 TheFifth Biennial Conference of East Asian Environmental History	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History	開催年 2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	ライデン大学自然史博物館			
オーストラリア	Western Sydney University			
その他の国・地域（台湾）	国立台湾大学	国立東華大学	台湾行政院農業委員会林業試験所	